

地球環境保全プロジェクト

三次市が黄砂

●主催 三次中央ロータリークラブ

●後援 三次市 / 三次市教育委員会 / 広島県備北教育事務所 / 中国新聞社 / 三次ロータリークラブ / 東城ロータリークラブ / 吉舎ロータリークラブ / 庄原ロータリークラブ

講演会報告(1)

2007年2月3日(土) みよしまちづくりセンター





●司会進行／新祖美智恵

皆様、本日は誠に寒い中、そしてお忙しい中、多数お集り下さいまして本当にありがとうございます。私は本日の司会進行を務めさせていただきます、当クラブの会員でございます新祖美智恵と申します。不馴れではございますが一生懸命務めさせていただきますのでどうぞ宜しくお願い致します。

それでは、早速進めて参りましょう。講演会副実行委員長であります山本浄基が開会の言葉を申し上げます。



●開会のことば／講演会副実行委員長 山本浄基

実行委員長の瀧本喜文会員に替わりまして、私、山本が開会のことばを述べさせていただきます。

本日は御多忙の中を多くの皆様方にお越し頂きまして誠にありがとうございます。

只今から、「ストップ・ザ・黄砂」の講演会を開催させていただきます。どうぞ最後までご静聴の程宜しくお願い申し上げます。

●司会進行／新祖美智恵

続きまして、主催者を代表しまして三次中央ロータリークラブ会長の高橋 宏がご挨拶を申し上げます。



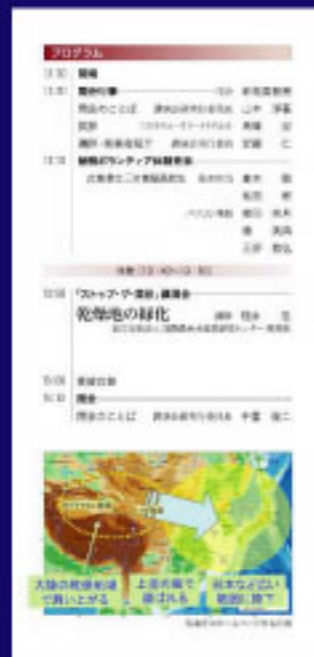
●ご挨拶／三次中央ロータリークラブ会長 高橋 宏

皆さん、こんにちは。

本日は大変寒い中、三次中央ロータリークラブが開催いたします講演会・体験発表会によるごそお出で下さいました。このように沢山の方にお出でいただきまして、心からお礼申し上げます。

本会の主旨につきましては、お手元のパンフレットをご覧ください。本日の主旨につきましては、お手元のパンフレットをご覧ください。本日の主旨につきましては、お手元のパンフレットをご覧ください。

それは、本日もこの会場に生徒たちを引率して下さいました広島県立青陵高校で教鞭をとっておられる田邊先生に出会えた事です。昨年6月の暑い夏の日の放課後、職員室でお話を伺いました。すると、現在に至るまで約15年の長きにわたって庄原実業高校や吉田高校、そして三次青陵高校の生徒たちを引率して夏休みを利用して中国内モンゴル自治区フフホト市のゴビ砂漠に植林に行っておられるのです。もちろん自費、ボランティアです。すでに延べ人数は150人にも達して、多大な効果を上げている事を聞きました。参加した生徒たちが気温40度にもなる砂漠で手に豆を作り、中には高熱を出しながらも頑張って植林をするという事を聞き、とても感銘を受けました。



また、植林体験や国際交流をして帰ってきた生徒たちが人間的に一回りも二回りも成長し、将来の目的意識をしっかりと持つようになるそうです。大学への進学率にも目に見えるものがあると聞き、最近の殺伐とした世相の中で、とても熱い子どもたちがいてくれることに改めて感動を覚えました。

そこで、こんな素晴らしい活動に対して、我々に何か手伝える事がありませんかと聞きまして、子どもたちがこの素晴らしい活動や体験をして帰っても、発表の機会もなく、なかなか皆様に知ってもらえる事が出来ないということで、今回の発表会を企画させていただきました。

また、黄砂について考えてみますと、最近は何度も量も多くなり、地球の温暖化はもとより、人為的要因など様々なことが考えられます。そこで地球乾燥地研究では第一人者でございます稲永先生に講演を依頼しましたところ、ご快諾いただき、本日の運びとなりました。稲永先生、ありがとうございます。どうかよろしくお願い致します。

さて、「地球環境保全 ストップ・ザ・黄砂」とタイトルや目的はとても大きくて、果たしてどれだけの事が出来るかわかりませんが、この講演、また体験発表が少しでも皆様のお役に立つことを願っています。また、我々も高校生に負けられないように今年6月にはゴビ砂漠に出かけ、この目で実際に見て、また植林を体験して、これから先何ができるかを考えていきたいと思えます。

本日は、どうかよろしくお願いいいたします。ありがとうございました。

●司会進行/新祖美智恵

続きまして、講師・発表者のご紹介でございます。講演会実行委員でございます安藤 仁がご紹介申し上げます。

●講師・発表者紹介/講演会実行委員 安藤 仁

皆さん、こんにちは。緊張されていると思いますので、ちょっと体を動かしましょう。手を上に上げて(司会：皆さん一緒にどうぞ)だいじょうぶ? 会長の固いお話がありました、リラックスして聞いて頂きたいと思えます。

パンフレットをお配りしていますのでもうご存じかと思いますが、講師は稲永忍先生です。今日は宜しくお願い致します(拍手)。

パンフレットに書いてないエピソードをお聞きしていますのでご紹介い



講演者

乾燥地の緑化

稲永 忍 先生

東京大学 地球環境学系 准教授

東京大学地球環境学系准教授の稲永先生は、乾燥地緑化、オアシスの創出が専門です。人々の健康に役立つ、自然環境を創出、改善の専門家です。乾燥地は、地球上の約3割を占め、農作物の生産もできません。その数は、増加傾向にあります。乾燥地は、食料不足のリスクを伴います。そこで稲永先生は、2004年、乾燥地の緑化を提唱しました。乾燥地緑化の専門家を設立し、世界中の乾燥地緑化の専門家を集めて、乾燥地緑化の推進に努めています。

稲永先生は、2004年に東京大学地球環境学系に所属し、乾燥地緑化の研究に取り組んでいます。乾燥地緑化の研究は、乾燥地緑化の専門家を集めて、乾燥地緑化の推進に努めています。稲永先生は、乾燥地緑化の研究に専念しています。乾燥地緑化の研究は、乾燥地緑化の専門家を集めて、乾燥地緑化の推進に努めています。

講演概要

稲永 忍 先生は、乾燥地緑化の研究に取り組んでいます。乾燥地緑化の研究は、乾燥地緑化の専門家を集めて、乾燥地緑化の推進に努めています。稲永先生は、乾燥地緑化の研究に専念しています。乾燥地緑化の研究は、乾燥地緑化の専門家を集めて、乾燥地緑化の推進に努めています。

稲永先生は、乾燥地緑化の研究に取り組んでいます。乾燥地緑化の研究は、乾燥地緑化の専門家を集めて、乾燥地緑化の推進に努めています。稲永先生は、乾燥地緑化の研究に専念しています。乾燥地緑化の研究は、乾燥地緑化の専門家を集めて、乾燥地緑化の推進に努めています。



たします。先生は1982年(32歳)に、中東の国サウジアラビアの大学に赴任されております。ここで本格的に砂漠との出会いがあり、乾燥地での作物学を研究されておられます。1990年から、鳥取大学乾燥地研究センター教授になられ、現在は茨城県つくば市にあり、国際農林水産業研究センターの理事長をされておられます。東南アジアとかアフリカへの農林水産業研究支援で、研究員150人のトップとしてご活躍されておられます。又、昨年6月にNHKテレビで「環境トーク」という番組がありまして、そこで「砂漠に雨を降らす男」として登場されておられます。とても楽しく解りやすく砂漠での研究の話をしておられます。本日も楽しく砂漠や乾燥地での諸問題について、どう対処して行ったら良いかお話を伺えるものとお楽しみにしております。

又、こちらは植樹ボランティア体験発表をされる三次青陵高校の生徒さん四人です。椿さんは、入学試験のため残念ながら欠席されています。一人一人紹介しますので起立願います。倉本 聡さん(拍手)。松田 彬さん(拍手)。植田奈月さん(拍手)。三好教弘さん(拍手)。彼等は、中国北京からさらに西へ、飛行機で45分かかると内モンゴル自治区のフフホト市に昨年と今年の8月に行かれております。ゴビ砂漠での植樹と、地元の生徒さん達と国際交流されて来ております。中国で異なる文化や歴史、そしていろいろな人々に出会い貴重な体験をされていると思います。発表を宜しくお願い致します。

●司会進行/新祖美智恵

私の方から、もうひとりご紹介させていただきます。高校生四人の方を指導なさって引率もなさっていらっしゃる広島県立三次青陵高等学校の教員、田邊先生でございます(拍手)。

それでは、体験発表のご準備お願い致します。



講演会当日、
開場で配付した
パンフレットと
アンケート用紙